



問 学校教育環境の整備状況は

答 今できる学びの環境を推進する



公明党
うえき しんしゅ 議員
植木 伸寿

問 GIGAスクール構想の実現に向け整備状況はどうか。

答 各学校でのネットワーク整備工事やタブレットを教室に保管する電源キャビネットの据え付け工事等を行っている。一人一台の端末は年度内に利用が開始できるよう準備を進めたい。端末をより有効に活用するため、プロジェクトチームを立ち上げ、ガイドラインの作成や研修の充実などを検討している。

問 通学路でもあるフーレストスタ須和間の交差点は、住民から信号機設置の要望があった

答 どのように対応したのか。

答 毎年実施する通学路の合同点検での結果も踏まえ、平成29年度から信号機設置を要望してきた。本年3月28日には、高野小松原線が開通し、交通量も増加している。当該交差点の信号機は7月22日の茨城県公安委員会において設置が決定した。

問 これからの学校生活の進め方は。

答 子どもたちにとってよい思い出づくりができ、達成感が味わえるような活動を大事にしていきたい。



一致団結 勝利に向かって走りぬげ(舟石川小学校運動会から)

問 農業支援センターの設置目的は

答 本村の農業推進のため課題解決へ



むらかみ たかし 議員
村上 孝

問 JA経営のファーマーズマーケットに、農業支援センターを設置した農業政策の目的と狙いは何か。

答 当時JAは消費者ニーズや流通形態の多様化への対応、村は多様な担い手の確保、安全・安心な地産地消の推進等が目的だった。

問 JAが組織拡大され、収益事業が強化されていく中で、村の農業政策のさらなる推進を図るため、支援センターを強化すべきでは。

答 JAと村の関係は車の両輪と考えている。今後も本村の目指す村民全員参加する、持続

可能な農業を目指す。

問 コロナ禍での複合災害対策は

答 防災・減災に万全の態勢で臨む

問 原電の津波対応と村の津波対策には合理性がないのは何故か。

台風とコロナ禍、地震と津波といった複合災害についてどう捉えているか。

答 原電は基準津波を策定しており評価手法の違いによるもの。多くの避難所の開設や、間仕切りの確保、民間施設の利用を進める。



農業支援センターのさらなる推進をのぞむ